

志木まち歩き活動報告

日 時 ●2011年9月24日(土)13時～17時

企画趣旨● 志木は、江戸時代に新河岸川と柳瀬川の合流地点にあった引又河岸（志木街道の引又宿）の市場から発展したまちです。今回のまち歩きでは、東武東上線志木駅東口の駅前再開発地や引又河岸や館の歴史的資源、柳瀬川の自然、30年前に鹿島建設が開発した志木ニュータウンなど、新旧市街地のまちの魅力を見つけることをねらいとしました。

ご案内は、志木のまち案内の会会長の一ノ倉達也さん、NPO東上まちづくりフォーラムの一瀬要さん、県まちづくり政策研のメンバーの方にお世話しました。

まち歩きのコース●：東口交番前（志木駅前再開発・東上鉄道開通・カップ像・いろは樋のモニュメント・・・）→旧道（奥州街道・野火止用水跡）→上の水車→カップふれあい館→田子山富士・敷島神社→親水公園→志木河岸・舟運→三代の堤防→引又橋・いろは樋→旧村山快哉堂→市場通り（今は無き野火止用水・市・古民家・・・）→宝幢寺→館の氷川様→柏の城跡→長勝院(チョウショウインハタザクラ)→柳瀬川の土手遊歩道→柳瀬川駅前の志木サテライトオフィス（意見交換会）→喫茶店「路」（懇親会）

参加者● 一ノ倉達也、*一瀬要、井手幸人、磯田尚子、大竹亮、大森享、荻原光枝、栗原徹、黒川静、清水章、高橋謙、中村昌弘、西山弘泰、平川康司、平野隆、*古里実、細川大輔、森川肇、山田秀明、ほか（*印は今回のコーディネーター）

共催● NPO 法人東上まちづくりフォーラム、建築学会埼玉支所、まち歩きグループTEKU-TEKU、

【参加者による評価】

（評価点の計算：とても良いA=5点、良いB=3点、普通C=1点、良くないD=1点とした平均値）

1 志木のまちを歩いた感想 AAAABBBB BBBB【3.4】

A：歴史的な文化遺産や民族資料のみならず、水害や舟運の歴史も大変興味深かった。

A：企画運営がしっかりしていた。案内者の案内が素晴らしかった。参加者の参加意欲が高かった。時間、コースともに適当（ほど良い）だった。

A：駅から本町商店街まで車ではよく通行していたが、河童像、交差点にある道標、水車など気がつかなかった。本町裏道から新河岸川への道は楽しい道だった。

A：水に関連した遺産をはじめとして地域の歴史的遺産が多く、それが住民にも訪れた者にも分かりやすく示されている。

B：旧民家が残る場所は志木の歴史を感じさせてくれる。新河岸川の橋からみる景観は歴史を感じさせる素晴らしい保存すべき景観。



B：一見すると普通の街だが、話を聞くと新河岸川などの川の流の変化や野火止用水など、様々な歴史が秘められていて、非常に奥が深い。

B：まちの歴史や記憶を保存する努力をしている。

B：古い歴史が見られて良かった。

B：いろは樋（野火止用水）などの歴史遺産を現在に残し、後世に伝えようとしている姿勢に感銘を受けた。案内人の方はよく勉強され、非常に分かりやすかった。



B：①舟運で発展した志木が水をテーマにして歴史的に価値のある文化遺産を町中を展示場にする発想はすばらしい。②いろは橋周辺は保全が良くされている。野鳥が町中にも関わらず飛来して来て、旧村山快哉堂のある川岸から覗く施設もあり、護岸もコンクリートで固めていない。自然が残された貴重なところです。堤防も江戸期から現在まで三期にわたる堤防が見ることが出来て良い。富士下橋からいろは橋方向の景観は印象的だ。③旧村山快哉堂の中が見られ説明のボランティアがいることは大変良かった。明治期の薬屋さんの様子が良く分かり、建物そのものも蔵作りの構造が良く観察できました。④いろは樋の大きさは 48 本の杉の大木を使用して作られた、長さも長い大規模のものであった事を知り驚いた。荒川に近い宗岡村にわざわざ遠方から野火止用水を引っ張ってきたか、治水上の問題があったのであろう、輪中と水塚とあわせて、江戸期の文化遺産として貴重である。⑤敷島神社と田子山富士塚、館氷川神社や寶幢寺など寺社が近くにある、それぞれ歴史の重みを感じる魅力のある所あった。

B：旧市街にはかつて栄えた河岸や市場を思わせる古い立派な建物が点在し、穏やかな水辺の風景も心地よかった。風情ある遺構や史跡もたくさん残されており、歩き回ると土地の歴史が実感できて、とても興味深かった。しかし、道路拡幅や土地利用転換で建物の高層化が進みつつあり、歴史的資源との両立が難しいところ。

B：市場通りなど河岸のまちとしての引又宿の歴史的資源が減少していることが気になる。新河岸川の三代の堤防や、柳瀬川沿いの景観は素晴らしい。いろは樋の模型や大枿などを街角に遺している点は好感が持てる。

B：かっぱ像、木版画、水車モニュメントや解説板が各所にあり、まちが来街者に目を向けている感じがして、良かった。新河岸川、柳瀬川の景観は、橋や建物が自然に溶け込み、水のゆったり感と合わせ、心地よい。公園化などで、自然感を損なわないように注意して欲しい。一方、市場通りと周辺は、ふるいものが壊され、無造作に新しいものが作られている印象があり、住民の間にまちづくりのコンセプトがないように感じられた。



B：案内人の説明が丁寧で分かりやすい。歩く距離も手ごろ。人数は今回くらいの人数が

良い。コースの一部で歩道なく危険な場所あり。

C：コース内容は充実していて熱心なガイドで参考になったが、休憩がないことと1回1回の話が長いことで、結構疲れた。

2 特に魅力的だったところ(箇所及び写真は歩いた順をもとに掲載)

○志木駅東口の再開発地区の広場：駅ビルと再開発ビルとの間の広場は程よいスケール感で、地区外のスターバックスなども含めて、いい雰囲気となっている。



○志木駅東口再開発の歩行者広場：駅と交通広場が離れてしまうという制約条件を克服、建物に囲まれたヒューマンスケールの歩行者広場が出来ている。とても居心地のよい快適なスペースで、多くの人が憩っていた。

○志木駅東口再開発地区の広場：志木駅が新座市側にあるため、駅前広場が北側に寄っているが、南側の市境側に歩行者広場を設け、区域外の路地とつなげ一体感をかもしたすなどの空間処理がうまい。行政界での再開発の苦心がうかがえる。



○再開発地区にあったいろは樋を模したオブジェ：新しい再開発地区でも歴史を後世に伝えようという思いが伝わった。

○駅前通りの拡張工事：道路拡張は渋滞の緩和や交通事故の防止という観点からは合理的では

あるが、沿道には地域の文化や歴史に対応しない建物が並び、個性がない景観を生む。地域の文化に根差した景観の形成・維持は地域住民にとって金銭面や利便性の面で厳しい側面はあると思う。しかし数十年後、人口減少、自動車社会の終焉を迎えた時に、郊外のロードサイドと変わらぬ無味乾燥な景観に住民は愛着を抱くだろうか。都市計画道路の完成には数十年の歳月を要することが多いが、数十年前の社会事情のまま遂行されてしまう都市整備に疑問を感じた。

○敷島神社の田子山富士塚：富士山が望めた昔日の風景を彷彿させる。

○敷島神社と富士塚：神社は立派ではないが素朴な感じが良かった。富士塚は整備して登れるようにしてもらいたい。

○敷島神社の田子山富士塚：富士塚としての形式が完備しているらしい。

○田子山富士塚：是非登れるように再整備すべきである。



○**敷島神社**：田子山富士塚が良かった。しかし富士塚は都内にも沢山あり、有名な所は大抵登ることができる。訪問者が登れるよう整備すべき。

○**田子山富士塚～親水公園**：志木にこんなところあったんだと思えたスポットの数々

○**いろは親水公園、こもれびの小道斜面林**：地主から寄贈された斜面林が親水公園として良く活かされている。

○**新河岸川に架かる斜張橋から見た川辺の風景(三代の堤防のあるあたり)**：とても市街地近傍とは思えない自然景観。

○**川添いの公園の橋**：新河岸川と合流する箇所が見られる

○**新河岸川の風景**：この町の成り立ちである新河岸川に親しめる三代の堤防のあたりが心地よい。船着き場も活用されるといい。

○**新河岸川**：新河岸川の昔の生活活動状況の説明が良く分かりました。

○**新河岸川**：橋からのゆったりした眺めを見ていると、水運華やかなりし往時の賑やかさや、水害と闘ってきた歴史が偲ばれる。

○**新河岸川と三代の堤防**：富士大橋から新河岸川、柳瀬川の合流を望む景色が素晴らしい。江戸、昭和、平成の三代の堤防を望めるのも良い。

○**3代の堤防**：水と緑の豊かな自然環境の中であるとともに、様々な時代に水と闘ってきた歴史の蓄積が、目に見える形で残っているのがいい。

○**いろは樋と3つの堤防**：まちづくりの知恵と歴史を歩いて体現できる。

○**新河岸川の堤防**：それぞれの時代に築かれた堤防から、新河岸川・荒川流域の人々と河川の歴史がみてとれる。

○**志木河岸、舟運、引又橋・いろは橋、三代の堤防(水塚・総囲堤等)**：洪水、水害の歴史と、それらと戦ってきた先人の苦労が偲ばれる。また、舟運で栄えた当時を想像するのは大変面白い。

○**総囲堤と水家**：水の恩恵は水との戦いでもあったことを示す貴重な遺構であり、ぜひ一度見学してみたい。(輪中堤は岐阜でもあまり残っていない)



○道路脇に合ったいろは樋の模型(浦和土木事務所製作)：県も歴史を大切にしようという思いが伝わった。



○いろは樋のモニュメント：野火止用水を活用した往時の重要な施設をまちなかに解説展示しており、土地の歴史を目に見える形で伝えている。

○大ますの遺跡：貴重な歴史遺産です。

○レンガ大樹：重要な施設の実際の遺構が現地に残っているのがよいが、展示方法には工夫が望まれる。いろは樋とあわせて歴史の発展を伝えており、大変興味深い。

○市役所の位置とデザイン：川の分岐点という特異な場所に大通りに面して建っており、曲面のあるモダンでシンボリックなデザインと相まって、民主的なモニュメント性を有している。

○旧村山快哉堂：蔵作りの日本家屋の建築様式が良く分かる。梁の組み方、二階を薬草などの倉庫としたこと、調剤室もあって明治期の薬屋さんの雰囲気良く分かる。ボランティアのガイドさんから説明してもらえるのは、ありがたい。製造していた薬の種類や、近江の薬屋と販売提携していたなど商売のあり様が良く分かった。

○村山快哉堂：志木という町の歴史を感じさせる堂々とした建物をちゃんと保存している。

○旧村山快哉堂：豪壮で見事な町家が残され、かつてのこの町の栄華を彷彿とさせる。

○市場通りの町並み：道路拡幅によって町並みが変わりつつあるが、立派な町家がいくつも残り、かつての風景を思い起こさせてくれる。



○市場通の町並みと旧市街地の通りの名前：道路拡幅でも古い建物を残そうとしている事例が数少ないがあった。脇道に江戸道、富士道など粋な名前がついている。

○宝幢寺：立派な古刹だった。よく手入れされた境内も落ち着いていた。写真展を見て気分が和んだ。

○宝幢寺(かっぱ石像)：やはりかっぱ伝説は大人も子供も楽しめる。

○各地にあるかっぱの石像：まちの伝説をユーモラスに伝えている。

○かっぱ石像：河童が至る所にありいわれも説明されて特色あり。



○館の氷川神社、敷島神社：数歩、神社に入ると静けさに包まれ、そこで名称などの騒動の話を聴くと、先人達が地域を自分のものと捉えていた様子がよく想像でき、何か心強い気分になります。

○柳瀬川の土手：紅葉しはじめた桜並木が美しかった。どこまでも歩いていきたくなった。

○柳瀬川：釣りや川遊びをしている光景が良かった。

○志木ニュータウン：駅前立地のせいか今でも活きているオールドニュータウンとして興味深く面白い。

○ペアモール商店街：志木ニュータウン内のかつての計画による商業施設だが、ヒューマンスケールで賑わっていた。懇親会の喫茶店も良かった。

○ペアモール商店街：昭和の香りがする親しみやすい商店街。懇親会の喫茶店のナポリタンもおいしかった。



3 新旧の市街地が混在する志木の今後のまちづくりについてあなたの提案を記入ください。

○新河岸川の自然と歴史がこのまちのキモだと思います。このキモにどれだけ磨きかけられるかが新し

い町へ魅力づくりつながるのではないのでしょうか。

○ 志木は、新河岸川の河岸として発展してきた町であり、川の風景と旧市街の町並み、土木遺産を大切にすべきである。川の流路や三代の堤防、船着き場、水利施設などを 目に見える形で示すとともに、街道に沿った旧家の町並みを大切に残し、現代に活かしてもらいたい。再開発された駅前を利用する人や、志木ニュータウンに住む人たちにも、そうした町の歴史を実感できるような機会があるといい。

○志木は水運、治水の歴史を持つ街である。そういった点から県水辺再生100プランの一つとしての新河岸川の水辺空間の保全や再生整備の取り組み

<http://www.pref.saitama.lg.jp/uploaded/attachment/454004.pdf> は評価できる。こうした取り組みと合わせ、

残りわずかとなっている旧市街地の歴史的建物や野火止用水跡の再生、堤防、水塚、水辺緑地の保全に力を入れるべきである。そのためにも、志木まちの案内人の会 <http://www.shikiguide.org/> や地元NPOの「志木まるごと博物館化計画」<http://kap-pa-no.net/> のような取組の輪を広げ、商店街とも連携した動きになることを期待したい。

○道路拡幅などによって歴史的な街並みがあまり残っていないので、かつての街のイメージが判りにくい。街中に歴史的な素材が点在しているが、それだけでは伝わりにくいので、模型などによって野火止用水やいろは樋、かつての河川の状況などの歴史をわかりやすく説明する施設があるといいと思う。

○昔に比べて、街道沿いの歴史的建築物が減っているのが気になりました。一部、曳き家している建物もありましたが、行政とNPOと市民の皆さんが地域の歴史に気づき、良いものは残していこうという思いが強くなるようなイベントを行うべきだと思います。

○住民やお店が一緒になって、未来の志木はこんなまち、昔のこんなまちの上に今の志木がある、とい



うふうに、過去の何を残し、未来の何をどう調和させていくか、両方をつないでいくコンセプトを発信し演出もしたら良い、と思いました。

○新住民の旧市街地への理解と関心を高めることができればと思う。

○本町商店街は昔の家屋がなくなってきていて淋しく感じた。志木市は落ち着いた町のイメージがある。新河岸川の川下りとかできるようになれば、たびたび散歩したくなる町だ。観光地ではなく散歩したい町。また河童像があちこちあり、川と緑豊かな環境の生きていた河童をもっとPRして盛り上げてほしい。伝統文化（日本舞踊・邦楽で）も「河童」が出てくる。伝え残したい妖怪。

○歴史的な文化遺産や民族資料をもっと発掘整備するのが良いと思う。ただ、それだけで近隣の市と勝負するのはつらいので、やはり、洪水、水害の歴史、それらと戦ってきた先人の努力、水運で栄えた当時を再現する取り組みが必要と思う。それらを導線でつなげるルートができれば、相当の面白さを創出でき、訪問客も増え、結果的にお金も落ちるのではないかな。

○鉄道駅がいずれも市の縁辺部に位置するので、まちなか移動の利便性という点ではいささか不利かと思います。「足」をどう確保していくか。また、ちょっと歩いただけの印象ですが、志木・宗岡・館という旧来の各地区のつながりというか一体性をどうしていくか。またはそれぞれ独立して考えるか。

○都心から近い所にあり水と緑の町をコンセプトとした町づくりの取り組みをもっとPRしても良いのでは？。古い街並みがだんだん壊されて何処の町とも変わらない街並みになる可能性あり町開発に当たりもっと昔の姿を残す取り組みをしては？。野火止用水を復活させる方法はないか。

○荒川の方には見るべきものが無いのですか？もう少し広範囲に志木を眺めてみたい。休憩所のようなところがあればよいと思った。そこでお茶などが飲めればもっと良いと思う。宝幢寺にその様な所があったと思いますが他も充実して欲しいと思います。

○引又宿古絵図には野火止用水が市場通りの真ん中を通っていた様子が描かれているが、バスも通っている現在の所に難しいと思いますが、野火止用水を偲ぶ水の流れが復元できたらいいなと思う。街並み保存が出来なかったのは非常に残念だが、今からでも遅く



ありません。昔の面影を少しでも取り戻して欲しい。歩行者天国が出来るような賑わいを取り戻して欲しい。今ある「かっぱふれあい館」のような店が連なって人達で賑わう空間になったらよい。

○一番期待していた本町あたりの引又宿の古い建物が道路拡幅のためか10年前に比してもほとんど無くなっているのが残念だった。そうになってしまうと行田や深谷のような観光資源としての潜在価値は見いだせず、まちなみ保存の気運を起こすのは難しそうである。そうであれば点として存在する古い建物などを歴史とかでわかりやすくストーリーを結びつけるかが勝負になるのではないだろうか。

○①駅前プロムナードの有効利用：志木駅前のプロムナードは人通りも少なく閑散としている（夕方も同様だった）。比較的広い面積があるのだから、出店やストリートライブ、大道芸など毎日イベントを開けるようにしてはどうか。カフェなどでもいい。②若年世代のまち歩き案内人の養成：若い世代にまちの魅力を伝えることは都市の将来を考える上で重要なことである。小中学校や教育委員会と組んで、まち歩き案内人の養成を行う（まち歩き案内人の認定も行う）。また、中学校などで年に一回、まち歩きイベントへの参加を必修とするなど地域の歴史や文化を自分の足で歩いて観る機会を創る。



4 その他、今回のまち歩き企画の感想を自由記入

○志木の街を歩くのは30年ぶりくらいですが、再開発による駅前の変貌に対し、かつての面影を残す旧市街が懐かしかったです。また、この街が新河岸川や野火止用水、鎌倉街道とともに成り立っていたことが良くわかり、歴史資源も多数残されており、認識を新たにしました。それにしても、一ノ倉さんのご案内と解説の的確さには敬服しました。ありがとうございました（O.R.）。

○いろは樋の存在、三代の堤防とその周辺の自然と歴史的な建物、ここに志木のまちの原型とまちづくりの知恵があったとは知りませんでした。勉強になりました（I. Y.）。

○地域の史跡が失われる寸前に市が歴史を発掘し編纂していた点、まちづくりNPOの活動が盛んな点が素晴らしいと思った（I. N.）。

○身近な志木の町が、これほど歴史のある魅力的な所であったとは知らなかった。ボランティアガイドさんの活躍抜きには、とても知る由も無かったでしょう。6時間のコースを3時間余りで歩きましたが、残りの半分は何か非常に気になりました。敷島神社の田子山富士塚の復元とか、



市場通りの復元など、より魅力的な環境作りをして頂いて志木の町歩きが注目されるように期待しております（Y.H）。

○数年前、西部鉄道・東武東上線の合同企画で「野火止用水路を歩く」で東久留米から平林寺を通り柳瀬川まで歩いた。江戸人になったようで興味深かった。今回で野火止め用水路を歩くのは完結《多分？》したので満足。とても詳しい案内をして頂き、楽しかった。新河岸川は、昔、東武東上線が開通する前は川越から浅草まで、夕方舟に乗り・早朝、花川戸に着き、一日遊び 夕方また舟に乗り川越に帰ったとよく近所の年寄りから聞いていたので親しみのある川。昔の土手の跡とか残っていて興味深かった。江戸のロマンと文化を感じた（O. M）。



○志木というまちは、特に県南部の都市に多い、ともすればないがしろにしがちなまちの歴史をできる範囲で残し伝える努力をしているところが良いと思います。しかもそういうことを、今回まち歩きをするまでほとんど知りませんでした。おみそれしました、という感じです（H.T）。

○志木の街については駅前しか知らなかったが、今回のまち歩きで本当の志木の街を見ることができ、一の倉さん詳しい解説のおかげで、歴史的背景も含めて、非常に深く理解できたと思います。ありがとうございます（K.T）。

○私は個人的に都内の街歩きを行っているが、訪問場所選定の要素が幾つかある。①食事（何か名物が欲しい・名物がなければ歴史あるもの）②土産（食べ物でも小物でもなんでも良い）③銭湯（なければ仕方ない）④居酒屋（手軽に入店できるお手頃価格の店）等。これらは親父たちの東京街歩きのスタンダードだと思う（T.K）。

○地域のおいしい食べ物などを紹介してはどうでしょうか？今回以降の街歩きは有料とのことなので、食事代やおやつ代をあらかじめ参加費として徴収し、途中の休憩地点で食べ物を提供すれば、参加者もほっと一休みでき、全体としてメリハリのある街歩きになるとと思います（O.S）。

○志木と水一川・水路一の関係がよく分かって良かった。たびたび話に出ていた宗岡の方にも関心を持った。建築屋としては「ルストホフ志木」も訪ねてみたかった（M.H）。

○町歩きのポイントを絞る町歩きにするとよい。古民家探訪、歴史遺産、名物食べ物、開発地区、自然観察、その他。終了後の懇親会は行うことは良い（但し会費は 2,000 円以内）（K.S）。

○私は後尾スタッフとして一番後ろを歩きましたが車や自転車が気になりました。特に先頭集団と離れた人も居りました。落伍者やけが人が出なくてホッとしています。次回はあまり離れない様をお願いします（N.M）。

○志木は戦後の人口増加によって数百年の歴史が創り上げてきた文化や景観が覆い隠されてきたように感じる。今回のまち歩きを通じて、志木に限らず埼玉県各地にはそれぞれの地域の発達の歴史や過去の人々の営み、歴史的景観が現代にも様々なかたちで残

っている。歴史・文化に根差していない整然とした街を造るのではなく、まずは地域の隠れた歴史・景観を掘り起こし、それに沿ってまちづくりを市民がじっくり考えていくことが今後のまちづくりには重要な視点だと思う。そうしたことから地域の歴史や事情に精通している人物（今回は一ノ倉氏など）は地域にとって重要な資源であると感じた。今後は、こうしたイベントにどれだけ多くの市民を巻き込めるかが課題である（N.H）。



（コーディネーターより）

○「地元を歩いて見て知り」の部分は、「志木のまち案内人の会」の会長に解説をいただいて、見過ごしてしまう部分も何うことが出来、地元案内人の大事さも知り、とても奥深いまち歩きになりました。まち歩きの中に「食べる」時間をもっと仕込んだ方が良かったと思いました。懇親会の「昭和 30 年代懐かしの味のナポリタン」は濃い味を美味しくいただきました。人数的には、まよりの点から、今回の人数(20 人)を上限にした方が良いと思いました（一瀬要）。



○新旧の志木のまちの魅力を発見し、みんなで共有しようというねらいで企画したまち歩き、志木のまち案内人の会会長の一ノ倉さんの解説力により、大変深く、豊かなものになりました。ありがとうございました。参加者の皆さんの今後の志木のまちづくりへの提案を読むと、ハードの面での旧家の町並みなどの保全だけでなく、ソフトとして、新河岸川の河岸のまちとしての歴史を手掛かりにまちの物語をつくること、さらに、その語り部としての人材やコミュニティの育成が大切だということのようです。今後も、地元NPO、団地自治会、商店街などで、まちの魅力を、気づき気づかせ合うという、気づきの連鎖が生まれる街歩きがたくさん企画され、志木のまちがどんどん元気になることを願っています（古里実）。

